

きれいな
スイレンで
困ってます...

■発行元
なごや生物多様性保全活動協議会

住所: 名古屋市天白区八事五丁目230番地
TEL: 052-831-9104 FAX: 052-839-1695
e-mail: bdnagoya@kankyokyo.city.nagoya.lg.jp
ウェブサイト: <http://www.bdnagoya.jp/>

参考文献
愛知県. 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2009-植物編-. 愛知県環境部自然環境課. 759pp.
浜島繁隆. 2013. 水草の世界 生態と東海地方の分布・変貌の記録. シンブリックス. 151pp.
角野康郎. 2014. 園芸スイレン. ネイチャーガイド 日本の水草. pp.52-53. 文一総合出版.
宮野晃寿・藤岡正博・遠藤好和・佐藤美穂・諸澤崇裕. 2011. 調整池に繁茂する外来スイレン(*Nymphaea* spp.)のソウギヨ(*Otenopharyngodon idella*)
導入による抑制. 筑波大学農林技術センター演習林報告. (27):47-70.
名古屋市. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015-植物編-. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課. 385pp.

— なごやの園芸スイレン除去活動 —

なごや生物多様性保全活動協議会

はじめに

「睡蓮」と聞くと「和」のイメージがありませんか？

睡蓮は日本画や仏具に描かれることもあるので、日本古来の植物と勘違いされる方も多いのではないのでしょうか。しかし、市街地の庭園、ため池で見られる睡蓮は世界各地に生えるスイレンを交配して作られた「園芸スイレン」で、日本へは明治以降に輸入されたものです。

赤、白、黄色、様々な色で楽しませてくれる園芸スイレンは綺麗だからこそ、人の手でいろいろな水辺に植えられます。しかし植えられた園芸スイレンは日本の水草より丈夫なので、増えすぎてしまい、いろんな生きものが困っています。

「なごや生物多様性保全活動協議会」では前身となる「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の事業を引き継ぎ、平成20年から8年間、園芸スイレンの除去活動を行ってきました。

この冊子では、これまで協議会事業として実施してきた除去活動をご紹介します。各地で広がる園芸スイレンを除去する際の参考となれば幸いです。



様々な色の園芸スイレン

多様性と外来種

地球上には、様々な生きものが互いに「つながりあい」そして「バランスをとりながら」生きています。この、生きものとそのつながりの豊かさを「生物多様性」といいます。私たちも生きものの中の一員であり、生物多様性からの恵み（生態系サービス）を受けて生きています。

現在、開発や過剰な利用（乱獲）、外来種の持ち込みなど人間の活動によって、生物多様性が危機にさらされています。これらの一部は、野外に放たれて繁殖したペットや観賞用植物などです。地域の生態系や農作物に影響を与えたり、人間に直接危害を加えたりすることもあるため、生きものをむやみに野外に放さないことが重要です。



イラストは「なごや生物多様性センター」ウェブサイト
http://www.karkyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/ より転載

減ってゆく水辺の植物

環境の変化などによって、多くの植物が生育を脅かされています。中でも、水辺環境に生育する植物は、その多くが絶滅の危機に瀕しています。例えば「名古屋市版レッドリスト2015」では、リストに掲載された植物の、4種に1種が水辺の植物でした。

稲作の衰退や除草剤、水質汚濁なども原因ですが、外来種が増えることも原因となっています。外来種の中でも、アメリカザリガニ、ソウギョ、ミシシippアカミガメ、コイなどの動物は水辺の植物を食べてしまいます。コイも日本の生きものというイメージがありますがほとんどは外来種です。また、植物では園芸スイレンの他にホテイアオイや、キショウブなどの外来種も、水辺に生える在来種が生育している場所を横取りしてしまいます。

水辺の植物が減っている原因

- ・水田の放棄
- ・水田での除草剤の利用
- ・水田やため池の埋め立て
- ・水辺の護岸整備
- ・水質汚濁
- ・植物を食べる動物の侵入
- ・同じ場所に生える植物の侵入

園芸スイレンに似た植物

スイレンと最も間違えやすい植物に「ハス」があります。生育している場所や、花や葉の雰囲気がよく似ていますが、スイレンとは全くの別の植物です。食用のレンコンが土の中にできるのがハスで、葉はスイレンのように切れ込みが入らず、水をよく弾きます。

日本のスイレンは「ヒツジグサ」という名前です。山地の栄養分の少ないため池に生育しているため、園芸スイレンと比べて葉も花も小さく、根茎も横に伸びません。

園芸スイレンとよく似た葉を広げる日本の植物に「ガガブタ」があります。葉は似ていますが花が小さく、根茎が伸びません。ガガブタは少なくなっており、環境省のレッドリストでは絶滅危惧種に位置付けられています。

		園芸スイレン	ハス	ヒツジグサ	ガガブタ
		外来種	外来種	在来種	在来種
花	花色	赤色、桃色、黄色、白色	赤色、桃色、白色	白色	白色
	大きさ	手のひらくらい	手のひらくらい	ゴルフボールくらい	500円玉くらい
葉	形	切れ込みが入る	切れ込みが入らない	切れ込みが入る	切れ込みが入る
	大きさ	車のハンドルくらい	車のハンドルくらい	手のひらくらい	手のひらくらい
根茎		横に伸びる	レンコンになる	ビー玉ほどの塊	塊にはならない

園芸スイレンを選んだ理由

園芸スイレンは、もともと北アメリカやヨーロッパに生えている数種類のスイレンや、それらを掛け合わせて作られた栽培品種の総称です。いくつかの品種がホームセンターや園芸店で売られており、家庭でもメダカといっしょに睡蓮鉢などで育てられることがあります。

この園芸スイレンがため池などで見られるようになった原因は、「綺麗な花をみんなが見られるようにしよう」という「善意」で放たれたケースがほとんどです。園芸スイレンだけでなく、一度野外で増えてしまった外来種を除去するのは本当に大変で取り返しがつきません。野外で増えてしまった外来種はたくさんありますが、そのほとんどが駆除を諦めざるを得ないほどの状況です。そのような中で園芸スイレンを対象に選んだのには三つの理由があります。

1. ため池の多様性の保全
他の水草が生える場所を奪ってしまったり、増えすぎた葉により、他の生きものがすみにくい環境をつくってしまう。
2. 除去効果が高い
種子で爆発的に増える多くの外来植物と違い、根茎でゆっくり増える植物なので、駆除効果が得られやすい。
3. 啓発活動
花がきれいな植物が思わぬ害を及ぼすという一面を啓発することで、今後の投入を抑えることができる。

名古屋市内における状況

平成23年に名古屋市内111か所のため池のうち、87か所のため池で水生植物を調査しました。その結果、全体の27%にあたる24か所のため池に園芸スイレンが生育していました。

在来スイレンのヒツジグサが、いくつかのため池で生育していた記録もありますが、今回の調査では確認できませんでした。

多くの場所で確認された種類は、在来種のヨシ、ガマ類、ヒシで、4番目に多く確認されたものが園芸スイレンでした。そして、確認された園芸スイレンには、白、黄色、赤、ピンクなど様々な色の花が見られました。

園芸スイレンは、愛知県の「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づいて、県内の在来生物を圧迫し、その生態系に著しく影響を及ぼすおそれのある生物として公表されており、野外への投棄が禁止されています。

名古屋ではため池の1/4に園芸スイレンが生えている。



園芸スイレンの増え方

園芸スイレンは主に根茎で増えていきます。わたしたちがいくつかのため池で確認したところ、根茎は1年で約1m伸びるようです。1mなので、ゆっくりだと感じるかもしれませんが、同心円状に確実に広がっていきます。また、何らかの拍子に浮き上がった根茎が水面を移動し、離れた場所に定着することもあるようです。

また、名古屋市の塚ノ杵池では種子からの繁殖も確認しました。その他のため池では、種子から繁殖している様子は確認できていないため、根茎で広がっていると考えています。

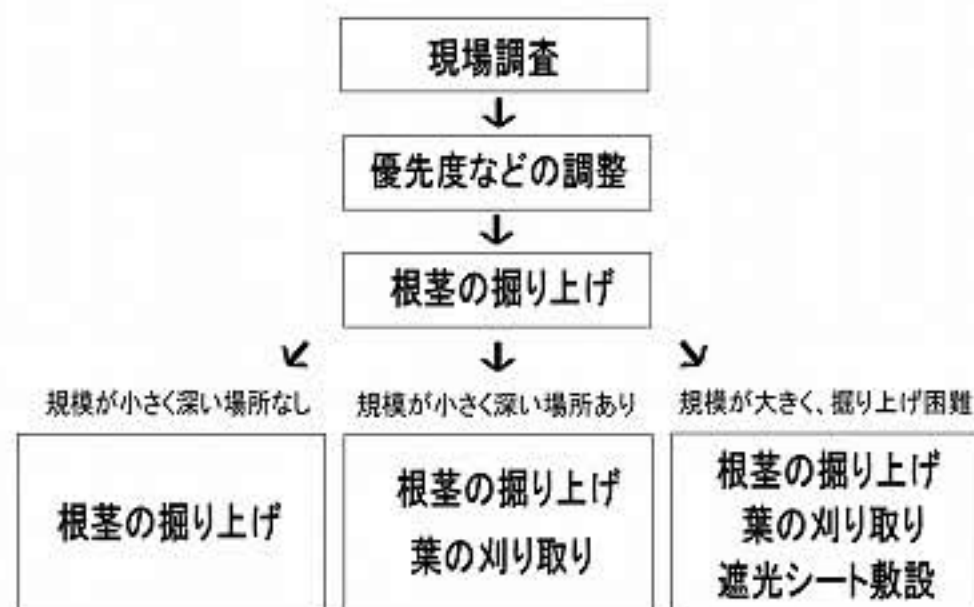


岸辺に流れ着いた根茎



除去のながれ

わたしたちは主に「根茎の掘り上げ」「葉の刈り取り」「遮光シート敷設」の3つの方法で除去を行いました。3つの方法を組み合わせながら、以下のような流れで除去を行うのが効率的と考えています。



1. 池の管理者に除去活動の許可を得る。
2. 池の浅い場所で試験的に根茎の掘り上げを行う。
同時に他の動植物の状態や水深・池の状況・水の流れなども調査する。
3. 結果をもとに、その他の活動と比較して優先順位を決める。
活動によってどのような影響が想定されるのかを関係者で話し合う。
4. 活動の内容が決まったら、春と秋の2回、事前に池の水位を調整した上で、根茎の掘り上げを行う。同時に動植物の調査も行う。
作業の時間や人数に対し、除去活動の効果がどのくらいあるかを把握する。

	水性植物への影響	水性動物への影響	水深	土壌の質	費用	労力	労力あたりの除去効果	栄養塩除去効果(推測)
刈取り	小	小	選ばない	選ばない	中	大(年数回)	小	大
掘り上げ	小	小	膝から胴	砂れき質は難あり	中	中(年2回)	中	中
遮光シート	シート設置部分は大	シート設置部分は大	選ばない	選ばない	大	中(設置撤去で年2回)	中	小
池干し	中	中	選ばない	選ばない	大	少	中	中
ソウギョ	大	大	選ばない	選ばない	小	少	大	?

方法① 根茎の掘り上げ

池底から根茎ごと掘り上げる方法で、浅くて規模が小さい場合に大変有効です。

この方法で除去が有効なのは、水深が50cmから1m20cmくらいの場所です。水深が50cmより浅いと、根茎の泥を落したり運搬するのに手間がかかります。特に、湿地状態でごく浅い場所にスイレンが生えている場合は根茎がすぐに折れてしまい、効率が悪いです。ため池の場合は、事前に水位が調整できると作業効率が上がります。池底に落ち葉が溜まった状態ならば作業が行いやすいものの、砂質やれき質の場合は根茎が掘り出しにくく、苦勞します。この方法は他の生きものへの影響が少ないと感じます。

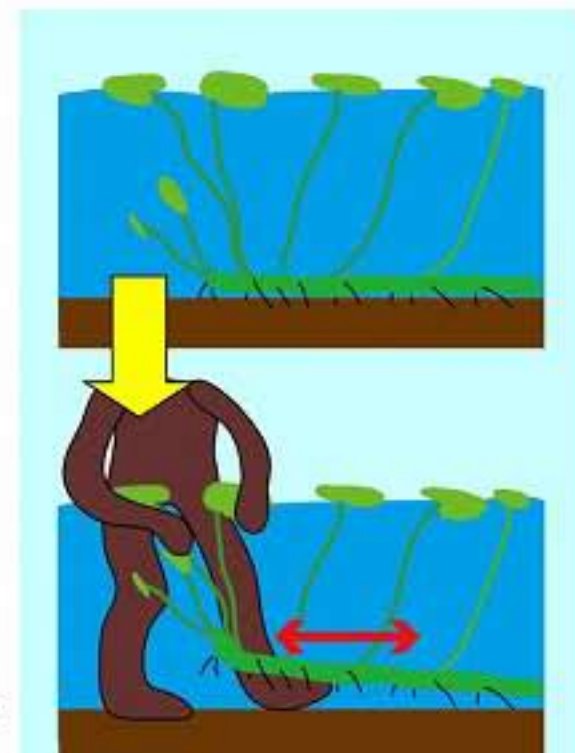
何種類かの道具を試した結果、池底に伸びる根茎を掘り上げるには備中鍬が使いやすかったです。鍬で掘り上げた根茎は、泥を払った上で水面に溜めておき、水面を滑らせながら岸まで移動できます。備中鍬は池底に沈まないよう、事前に紐で空いたペットボトルなどを結んでおきます。備中鍬を使うと根茎が切れてしまいます。どうしても取り残しが出てしまうため、取り残した根茎から葉が出たタイミングを見計らって再度作業します。例えば梅雨前の4~5月に1回目の作業を行い、暑い盛夏を避けて10~11月に2回目を行うなどです。

備中鍬を使わずに素手で除去する方法もあります。除去効率は悪いですが、根茎を折ってしまうリスクが下がります。まず根茎の先端を見極めます。新しい葉が出ている真下が先端なので、そこから足で探り当ます。何枚かの葉を持って、根茎を引き上げながら、同時につま先で根茎から更に下に伸びる根を切ります。慣れると2m以上の長さが切れずに除去できます。

なお、深い場所に生える根茎を掘り上げる方法は見つけれられていません。人が入れない深い場所に生える根茎を取るため、ボートに乗りながら柄の長い備中鍬を使って掘り出そうと試してみましたが、うまくいきませんでした。



備中鍬



備中鍬を使わず、手と足でスイレンを掘り上げる

方法② 葉の刈り取り

水面に浮いた葉を刈り取ることで光合成ができなくて、根茎が伸びるのを抑えるものです。

この方法は池自体の栄養分を取り出す効果があり、水質向上が期待でき、除去による他の生物への影響も少ないと考えています。水深のある場所では刈り取りが主な除去方法となりますが、除去効率は悪いと感じています。葉は刈った後もすぐに伸びてきます。1回あたりの除去労力はそこまで大きくありませんが、何度も刈らないとすぐに戻ってしまいます。

刈り取る道具としては、柄の長い鎌が効果的です。刈り込み鋏やノコギリなどは鎌よりも使いにくい印象でした。作業中、刈った葉はボートに積んだりするよりは、熊手などを使って水面を滑らせながら岸まで寄せた方が効率的です。

刈り取った葉を、水分を含んだままの持ち運ぶことは大変なため、岸辺で乾燥させた上で処分したところ効率的でした。



1ヶ月半後



園芸スイレンの葉の裏に産み付けられたモツゴの卵。園芸スイレンも動物の隠れ家や産卵場所になっている。



回収したスイレンを袋詰めしたところ持ち運ぶのが大変でした。

方法③ 遮光シートの敷設

スイレンを除草シートで覆い、根茎を腐らせる方法です。敷設と撤去に人手が必要で、シート作成にお金がかかりますが、ひと夏被せることで、広い面積の根茎を腐らせる事ができます。シート撤去後は腐敗した根茎が他の生物に害を及ぼしたり、景観を悪くするような様子も見られませんでした。シートを被せた場所では他の生物にも影響が考えられますが、池の部分的な被覆ならば、それほど大きな害もないと感じます。



シートの下で腐った根茎

問題は、大水などによりシートが流れる危険性をどこまで防げるかという点です。池の排水箇所に流れてしまうと大きな事故に繋がってしまいます。流れがある場所では使わない方がよいと考えます。

ちなみに2m×2mの小規模なシートも試しましたが、根茎が腐ることもなくモヤシ状になるのみでした。

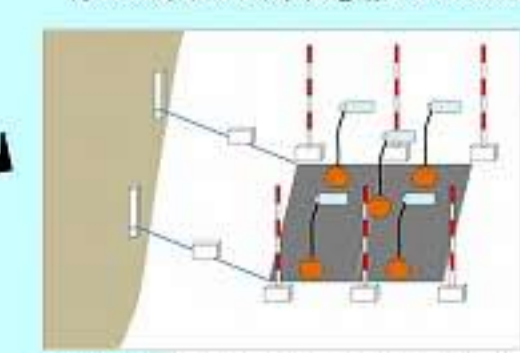
設置手順



1. 遮光シートの組み立て



2. 設置場所に目印のポールを立てる



3. シートの運搬。ボートに乗せなくても浮力があるので、水面を滑らせればよい。

4. 定位置に設置。ロープで固定する。

遮光シートの構造と資材

シート

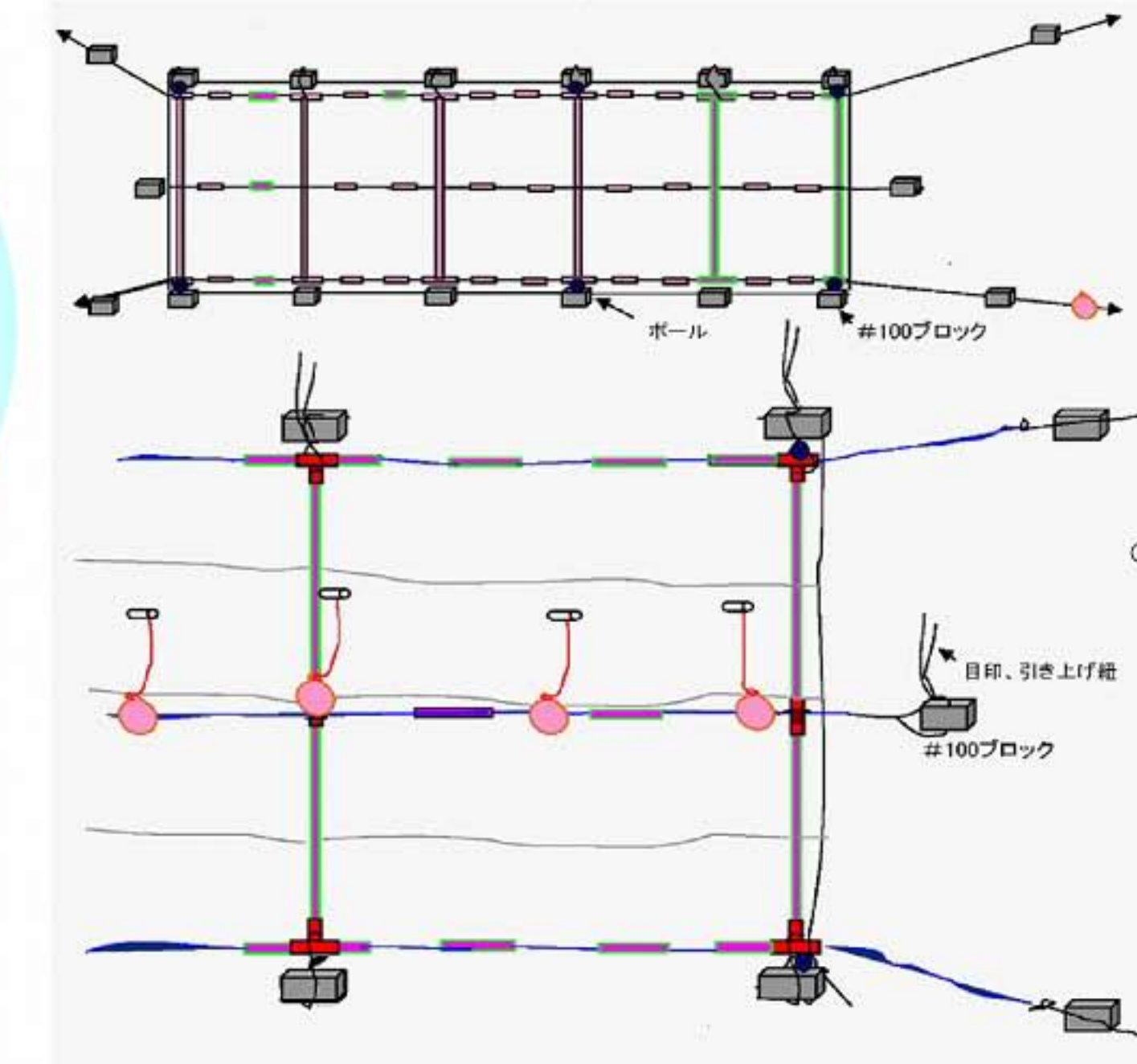


防草用に市販されているポリプロピレン製の遮光シート(2m×100m)を加工して使用しました。

接着



シートとシートの接着剤には「クロロブレンゴム系溶剤形接着剤」を使用しました。3年間水中に沈めましたが、目立った劣化は見られませんでした。



塩ビ管



水道用の塩ビ管(20A)。管の中には紐が通っています。塩ビ管とシートの固定は「温室用パッカ」を使います。塩ビ管を接着すると持ち運びが困難なので、折りたためるように接着はしていません。

ボート連結



ボートに乗って作業する際、重い土のう袋やコンクリートブロックの設置はボート1艘で行うとバランスを崩すおそれがあるため、2艘のボートを連結し、その間のスペースから安全に配慮して作業しました。

重り



土のう袋とブロック。針金で括りつけます。黒いビニール紐にペットボトルを取り付けて、目印としました。

杭打ち棒



市販の鉄管と鉄管用キャップを組み合わせたものです。目印として池に打ち込んだ測量ポールが浮力で抜けることが少なくなりました。

看板



池を訪れる方に園芸スイレンや外来種について知ってもらうため、看板を設置しました。

その他資材

クレモナローブ…3年水で使っても劣化ほぼなし。
トラローブ…ボートの移動にも使える。
マイカ線…作業用の紐として使いやすい。
ワイヤーベンチ…針金作業には必須。
ブルーシート…汚れた資材を包んで移動。
衣装ケース…胴長などの物品を積むのに便利。
高圧洗浄機…胴長やボートを洗うのに便利。
ライフジャケット…ボート作業には必須。
塩ビカッター…解体作業に便利！

辺縁部のほつれ防止やガス抜き穴の補強も行いましたが、3年の敷設でもほつれや劣化は見られませんでした。

事例紹介① 東山新池

名古屋市千種区の東山新池は水面の約8割が
園芸スイレンに覆われ、ヒシやマツモなどの日本に
もともといた在来種の生育が脅かされています。

平成22年より「なごや東山の森づくりの会」の方々と
共にスイレンの防除方法を模索してきました。

試行錯誤の中で、遮光シートを試したところ、
効果的であったため、移設を含め計4回の敷設を
行いました。



遮光シート	面積	設置日	撤去日	設置期間
A	約200㎡	2010年3月15日	2011年6月11日	約15ヶ月
B	約63㎡	2012年3月13日	2012年11月28日	約8ヶ月
C1(移設前)	約170㎡	2013年3月20日	2013年12月17日	約9ヶ月
C2(移設後)	約170㎡	2013年12月17日	2015年12月3日	約24ヶ月

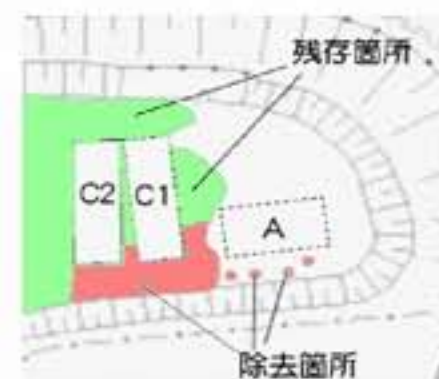
平成22年3月、A地点に遮光シートを設置しました。
約1年後に撤去してみると、根茎が綺麗に消えて
いました。A地点の南には根茎が残っていましたが、
根茎を掘り出すことで除去することができました。



平成24年3月、B地点に小型のシートを設置しました。
三方をスイレンに囲まれ、侵入が早いこともあり、3年
後には元の状態に戻ってしまいました。

平成25年3月、C地点に移動可能なシートを設置
しました。その年の10月にシートを移動させ、移動
後は周辺の根茎を除去しました。そして、2年後の
平成27年12月、シートを撤去しました。池から撤去
したシートを確認したところ、資材の劣化も少なく、
もう1～2年は継続使用ができるのではないかと
感じました。

平成20年に行われた池干しの効果も合わせ、貴重な
生きものが見つかるようになり、ゆっくり着実に生態系が
回復しています。



平成25年6月時点での状況

シート移動



遮光シートC地点を南部から見た写真。右が移動前、
左が移動後。この後、周辺に残るスイレンを掘り上げる。



手順。全ての重りを取り外してから両端のロープを
引っ張った。シートの上に泥が溜まっており、かなり
重いため、片方ずつ交互に引いた。

シート撤去



撤去後のシート。想像とは違い、劣化は少なかった。
まだ2～3年は使えそう。



手順。まず全ての重りを外し、シートの片側にロープを
結びつけ、陸から地引き網の要領で一気に引き上げた。



シート撤去後もその後の確認のため測量
ポールは残しておく。

事例紹介② 塚ノ杵池

名古屋市名東区の塚ノ杵池は、ガガブタやジュンサイなどの希少種が生育しており、名古屋市内でも生物多様性が高いため池の1つです。塚ノ杵池では平成3年ころに投入された園芸スイレンが徐々に増え、現在は池の半分を覆うほどに広がっています。

平成22年7月、浮葉の刈り取りを行いました。しかし、数週間後には元の状態に戻ってしまい、一度きりの刈り取りでは効果が見られませんでした。平成23年9月から始まった堤体工事に伴って、水位が約1.5m下げられたことで、翌年、特に浅い場所のスイレンが大幅に減りました。しかし、平成27年9月時点ではスイレンの生育範囲も徐々に拡大しています。



埋土種子発芽実験の様子



水位が下がった塚ノ杵池



発芽した園芸スイレン

平成23年12月、堤体工事に伴って水位が下げられたタイミングを見計らい、池周辺の14箇所から土壌を採集し、埋土種子の発芽実験を行いました。

この実験により、塚ノ杵池の土壌には、園芸スイレンやフサジュンサイなどの外来種、ジュンサイなどの在来種が発芽できる状態で保存されていることが確認されました。



平成27年10月にドローンによるスイレン分布状況の空撮を試みました。平成28年10月にもう一度飛ばし、1年間でどのくらいスイレンが広がっているのかを確認する予定です。



外来種駆除の大変さを実感していただくため、平成24年9月に、手作業による抜き取り講座を行い、協議会員や市民調査員などが参加しました。

事例紹介③ 牧野池

名古屋市名東区にある牧野池は、名古屋市で最も大きなため池です。平成24年、地元の保全団体である「牧野ヶ池緑地保全協議会」との合同調査によって、花の色が異なったスイレンが繁茂していることがわかりました。

また、牧野池には園芸スイレンと生育環境が競合するガガブタが生育もしていることから、早期に対策を行う必要があると考え、「牧野ヶ池緑地保全協議会」と協働で、根茎の掘り上げを行いました。



事例紹介④ 四郎曾池

名古屋市緑区の四郎曾池は、名古屋市のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられているガガブタが生育しています。この池での園芸スイレンは5㎡程度と小規模ですが、スイレンはガガブタと同じように葉を水面に広げるため、このままスイレンが増えしまうとガガブタが絶滅しかねません。

平成24年7月、手作業による根茎の掘り上げを行いました。水深50cmほどで作業がしやすかったものの、土壌が砂質のために、何度か根茎を折ってしまいました。3ヶ月後の平成24年9月に再調査したところ、案の定、池底に取り残した根茎から展開したと考えられる3枚の浮葉を確認しました。そこで、平成25年10月に再度、根茎の掘り上げを行いました。これで安心かと思いきや、平成26年にも再生が確認され、再度、慎重に掘り上げました。平成27年8月に確認したところ、スイレンの再生は見られませんでした。1回の作業時間は3人で30分程度と短いですが、苦節3年かかりました。



事例紹介⑤ デッチョ池

名古屋市名東区デッチョ池の調査事例を紹介します。この池は日本や外国の水草が何種類も生えていて、一見豊かなため池に見えますが、残念ながら池の改修工事で人為的に植えられた水草のようです。

そんなデッチョ池で奇妙な事が起こりました。平成23年6月の調査では、池の半分以上の面積で園芸スイレンを確認しましたが、平成24年8月の調査ではスイレンの生育面積が極端に減っていました。さらに平成24年11月の調査では、池底に根付いたスイレンは見当たらず、生きた根茎が25本ほど浮いていただけです。

なお、同じ場所に生えていたコウホネやフイなどの水草については、平成23年と平成24年の調査を比べても生育に変化がないので、除草剤や水草を食べる外来動物の影響も考えにくいです。なぜ園芸スイレンだけがなくなってしまったのでしょうか。



園芸スイレン除去活動のあゆみ

名古屋ため池生物多様性保全協議会

- 平成20年1月 緑区笹池での池干し活動において、スイレン根茎除去
- 平成21年6月 千種区東山新池、名東区塚ノ杵池で生物調査
- 平成22年2月 千種区東山新池で遮光シートの敷設
- 平成22年7月 名東区塚ノ杵池にてスイレンの葉の刈り取りと小規模遮光シート敷設

なごや生物多様性保全活動協議会 外来スイレン対策部会

- 平成23年6月 千種区東山新池で遮光シートの撤去
- 平成23年9月 名古屋市内のため池のスイレンを含めた水生植物の分布調査
- 平成23年10月 名東区塚ノ杵池にて、埋土種子発芽実験のための土壌採取
- 平成24年3月 千種区東山新池で遮光シート(20㎡)の敷設
- 平成24年8月 名東区デッチョ池スイレン調査
- 平成24年8月 天白区細口池にてスイレンの葉の刈り取り
- 平成24年11月 千種区東山新池で遮光シートの撤去
- 平成25年3月 千種区東山新池で移動可能な遮光シートの敷設
- 平成25年6月 名東区牧野池にてスイレンの分布調査
- 平成25年10月 緑区四郎曾池にてスイレンの除去
- 平成25年10月 千種区東山新池で遮光シートの移動

なごや生物多様性保全活動協議会 水生植物部会

- 平成26年5月 名東区牧野池にてスイレンの根茎の除去
- 平成27年12月 千種区東山新池で遮光シートの撤去



その他の水生植物関連活動

名古屋城

平成22年7月、名古屋城のお堀でオニバスの種子を探すため、コアサンプリングを行いました。残念ながらここではオニバスの種子はみつきませんでした。

平成24年9月、野鳥を観察されていた市民の方がオニバスを発見。協議会がオニバスを探していた経緯をご存知で、協議会にご連絡をいただき、調査をしました。20年ぶりの再発見でした。

平成27年9月の調査ではそれまでで最も大きい直径131cmの葉を付けた個体が1株のみ見られ、葉の標本を作成しました。名古屋城のお堀では、協議会によってオニバス減少の一因となったソウギョやアリゲーターガーなどの外来動物駆除活動も行われています。



外堀東部 オニバスの生えるヨシ帯



なごや生物多様性センターまつりで標本展示



平成27年 最大葉長133cmのオニバス

河川調査

平成26年7月、名古屋市を流れる荒子川で河川の水生植物調査を行いました。いくつかの貴重な水生植物も見つかった反面、ウチワゼニクサなどの外来種が広がっていることを確認しました。



荒子川のウチワゼニクサ

水田調査

「なごや東山の森づくりの会」の方々が耕している水田に生える水田雑草の調査を行いました。また、会の方々に、水田雑草の希少性や、植物の標本作製方法、水田雑草の生態解説などを行いました。



池干し調査

池干し活動に伴う調査の一環として、いくつかのため池で水生植物の調査を行いました。

天白区の大根池では以前に生えていなかったアサザやガガブタが見つかりました。アサザもガガブタも環境省の絶滅危惧種に指定されている貴重な水草ではあります。

しかし、アサザは花が綺麗でホームセンターなどで園芸スイレンと共に売られており、大根池のアサザも放棄された国内外来種と考えています。



大根池のアサザ

資料整理

文献や写真などの資料を整理し、情報の集約を進めています。



データベース

協議会では名古屋市民の皆さまからの外来生物をはじめとする名古屋市内の生きものの生息・生育情報の募集を行っています。園芸スイレンも募集の対象となっています。

